取組のポイント（日本分析化学専門学校）

1 遠隔授業を行う上での工夫

・ZOOMの機能（音声、挙手、あるいはチャット）を活用
・授業開始時は生徒に時間を共有していることを感じてもらうため点呼を実施
・毎日、生徒専用ホームページ・メールで校長・担任からのメッセージを配信・当日中に、当日の授業の録画動画をYouTubeに掲載
・当日配布した教材等も生徒専用ページに掲載

2 講義科目関係

・校内の図書資料室での授業動画の視聴や、DVDの貸し出しを実施

3 実習科目関係

・教員が遠隔授業で実験の様子を演示し、登校日に実験室で実際の実験を実施

4 生徒への支援

・Web個別面談を実施（学習面、生活面、就職指導）
・求人企業からの求人情報をPDFでダウンロードが可能に
・教員が求人企業の紹介をする動画を作成
・クラブ活動・課外活動の勧誘について、生徒自ら動画作成し、勧誘活動を実施

取組のポイント（大阪情報専門学校）

1 遠隔授業を行う上での工夫

・遠隔授業ではMicrosoft Teamsを活用
・Microsoft Formsで演習課題や日報を提出
・スマートフォンからでも実習が可能なツールとしてプログラミング演習用にpaiza.IO を活用

2 遠隔授業での学習支援

・Teamsの予定表に時間割を掲載するとともに、授業で使用するスライド資料も事前に専用ウェブページに掲載
・授業開始の10分前になると自動配信で生徒に通知
・一方的な講義にならないようチャット機能等を活用し生徒の理解度を随時確認
・授業後に、必要に応じて電話で生徒をフォロー
・専用の科目サイトに授業動画をアップロードし、復習教材として活用

3 生徒への支援

・希望者には学校のノートパソコンを貸し出し

取組のポイント（九州技術教育専門学校高等課程）

1 遠隔授業を行う上での工夫

・毎日同じ会議URLを使用することにより、スムーズな授業開始を実現
・iPadやペンタブレットを活用したホワイトボードアプリでの説明
・Google Classroomを活用した問題演習及び自動採点

2 遠隔授業導入に際しての取組

・教員のITスキルの低い先生が研修ゼロで「普段通りの授業」が行えるよう、
①配布資料の簡略化
②毎日同じURLを使うことによるスムーズな授業開始
③毎朝の環境チェック（ホワイトボード、先生の映り、音声）
等を実施

3 生徒への支援

・インターネット環境のない生徒は登校を許可
・オンラインでの個別面談の実施
・PCの貸与

取組のポイント（中央農業大学校）

1 遠隔授業を行う上での工夫

・教科の特徴に合わせて同時双方向型、オンデマンド型、ハイブリッド型の３つの形式で実施
・同時双方向型では意思表示の薄い生徒に配慮すること、オンデマンド型では生徒の集中力を考慮し動画を１０～１５分程度に短く編成したり、教科書の何ページかを表現したりすることなどを工夫

2 遠隔授業の学習支援

・専門知識がなくてもGoogleサイトで簡単にホームページを作成できる
・Googleカレンダーで授業の時間割や注意事項、テキスト、生活リズムを乱さないために時間も指定
・確認テストの結果はGoogleスプレッドシートで一覧化が可能

3 生徒への支援

・生徒が遠隔授業の通信環境を整えるために３万円支援
・遠隔授業を行う上での生徒用マニュアルの作成、電話・SNSでの相談、受講履歴のない生徒には同日中に電話連絡を実施

取組のポイント（東京メディカル・スポーツ専門学校）

1 遠隔授業を行う上での工夫

・学校から生徒への発信する情報はMoodleを、学習しづらい実技の授業ではYouTubeを、リアルタイムで実施する授業ではZoomを使用
・Moodleでは、お知らせの告知、課題提出、質疑応答、テストの実施などが可能

2 授業科目関係

・Zoomを使ってパワーポイントを共有したり、ホワイトボードを写しながら説明したりするなど生徒が飽きずに集中できるよう多様な方法で配信

3 実習科目関係

・学習しづらい実技の授業ではYouTubeに制限をかけて限定公開

4 生徒の支援について

・無料のWi-FiルーターやPCの貸し出しを支援

取組のポイント（日本医学柔整鍼灸専門学校）

1 遠隔授業を行う上での工夫

・遠隔授業のアプリケーションは生徒の負担が少ないZoomを選択
・ボタンを使用したオンライン上での小テストや、ペンタブを使用した板書、学生へのリアルタイムの問いかけを実施
・操作補助、受講状況チェック等のため全ての授業に補助教員を配置
・メール質問窓口を目的別に新規開設

2 遠隔授業導入までの取組

・生徒に対する受講環境の調査
・教職員間での模擬授業の実施し、相互評価
・生徒向けに２週間のトライアル配信を実施

3 授業科目関係

・全４期のうち第１期を遠隔授業に充て、時間割を再編成
・第１期の実技科目を第２期以降に後ろ倒しする一方、難易度の高い科目が集中しないよう配慮しつつ一部の講義科目を第１期に前倒し

取組のポイント（専門学校ＹＩＣリハビリテーション大学校）

1 遠隔授業を行う上での工夫

・Moodleで説明資料や課題を提示し、Zoomで授業を受講
・Moodleで小テストを実施し、習熟度を把握
・授業後の質疑応答はMoodleのチャット機能で双方向で実施

2 実習科目関係

・学校再開後にスムーズに対面授業が行えるよう、事前に実技に関する動画のストリーミング配信を実施

3 学校養成所関係

・医療機関での臨床実習は学内実習に変え、医療機関の見学実習は新型コロナウイルス感染症の収束後に実施するなどカリキュラムを変更

4 生徒への支援

・説明資料は動画を控え、パワーポイントなどの資料を使用することにより、教材を低容量化し、ＰＣのない生徒や通信制限のある生徒に配慮

取組のポイント（専門学校穴吹デザインカレッジ）

1 【遠隔授業の取組・工夫】

・本校の遠隔授業ではWebex meetingならびにGoogle classroomを利用。
・Webexでの授業では、画面上で教員・学生の顔を見てコミュニケーションをとることができるため、教室の授業に近い環境で授業が行える。
・学生の立場にたち、音声だけでなく画面に教員の姿を映すよう配慮。学生が孤立しないように小まめな声掛けを行う。
・ Google classroomでは、課題の提示・提出、出席確認を行う。

2 【遠隔授業の取組・工夫】

・教員の手元の作業がオンライン視聴では見えづらいことから、「書画カメラ」を使うことで解消。
・産学連携よる作品制作もオンラインで指導。地元商店街より新型コロナウイルスの啓発ポスターの制作依頼があり、学生は１週間程度の期間で制作。

3 【学生への支援】

・学習環境補助費として、学生1人当たり2万５千円を給付。
・Webexを用いて担任と学生一人一人の「個別ガイダンス」を実施。